

変わる

物流・観光

①

時短効果に商機あり

高速道路が、初めて釧路管内にまで延びる。道東道浦幌インターチェンジ（IC、十勝管内浦幌町）—白糠IC（釧路管内白糠町）間26キロが29日に開通、釧路市中心街まで約50キロに迫る。1973年の清水（現十勝清水IC、十勝管内清水町）—釧路間の基本計画から42年。ようやく道央圏と釧路圏が高速道で結ばれる。観光や物流などにどんな影響が出るか探つた。

「札幌の午後の会議に間に合う便の要望は前から根強かつた。増便するなら釧路管内に高速道が延び、時間短縮となる今しかない」白糠IC開通により札幌—釧路の日中の高速バスは所要時間が15～25分短縮され、5時間25分前後となる。くしろバス（釧路）、運行する阿寒バス（釧路）、北海道中央バス（小樽）に増便を打診。開通翌日の30日から1便増やし1日4～5往復とし、午後0時台に札幌に着くダイヤを作つた。

バス増便攻勢

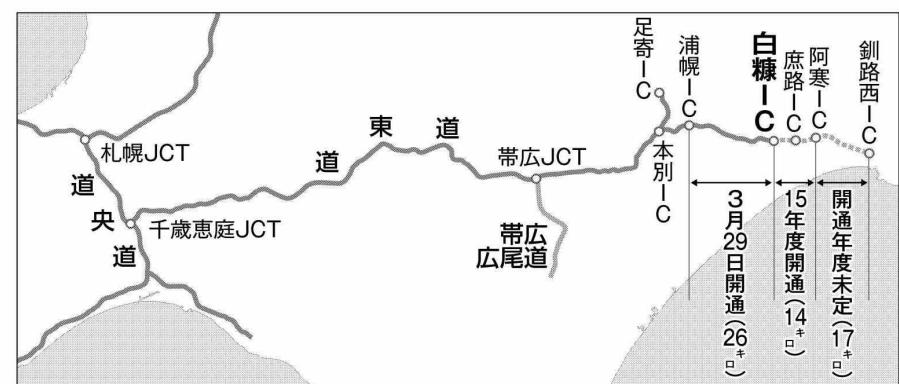
札幌—釧路のJR特急は安全対策のため減速運転で4時間～4時間半かかる往復とし、午後0時台に札幌線を運行する北海道バス（札幌）も4月から1便増の1日4往復に。バスの運賃は往復約1万円。JRより6千円ほど安く、く

しろバスは「15年度の阿寒IC（釧路）延伸でさらに20分短くなる。利用者を増やしたい」と鼻息が荒い。

札幌—釧路（約320キロ）は東京—名古屋に匹敵する距離だ。国道274号は日勝峠がネックとなり、夏季の往来。国道38号は区間に

定期運行していた釧路発着藤丸（帯広）。08～10年に定期運行していった釧路発着の買い物バスターズを4月に試験的に復活させ、「定期運行が可能か探る」。

懸念されるのが高速料金の高さだ。本別IC（十勝管内本別町）以東は無料区間だが、昨春以降、自動料金受取システム（ETC）割引が段階的に縮小・廃止されたことで、本別IC～札幌南ICの普通車料金は5490円（平日昼間）。



開業を待つ道東道白糠IC付近＝2月26日

百貨店も注目

でも乗用車で7時間近くかかる。道東道を使えば、停留所での停車などがない乗用車なら、4時間40分と4時間台で移動できる。

時間短縮で関係者が期待するのが釧路圏と十勝圏との往来。国道38号は区間に

よつて道幅が狭く、カーブも連続する。北大大学院の岸邦宏准教授（交通計画）は「直線が多い高速道は運転のストレス軽減効果が大きい」と両圏域の計60万人の交流拡大を予測する。

「道東道延伸は釧路圏への商機拡大のチャンス」とみるのは道東唯一の百貨店藤丸（帯広）。08～10年に定期運行していった釧路発着の買い物バスターズを4月に試験的に復活させ、「定期運行が可能か探る」。

懸念されるのが高速料金の高さだ。本別IC（十勝管内本別町）以東は無料区間だが、昨春以降、自動料金受取システム（ETC）割引が段階的に縮小・廃止されたことで、本別IC～札幌南ICの普通車料金は5490円（平日昼間）。

札幌市の自宅に毎週末、車で帰省する釧路市在住のNTT東日本北海道法人営業部の原靖さん（43）は「休日割引が半額から3割になり、高速料金の負担は大きい」と嘆く。割高な料金は観光にも影響しかねず、白糠延伸の効果が釧路圏に十分広がるかは不透明だ。

札幌—釧路のJR特急は安全対策のため減速運転で4時間～4時間半かかる往復とし、午後0時台に札幌に着くダイヤを作つた。

おり、白糠IC開業後はバスとの差が1時間切るケースも出てくる。高速バスの運賃は往復約1万円。JRより6千円ほど安く、く

NTT東日本北海道法人営業部の原靖さん（43）は「休日割引が半額から3割になり、高速料金の負担は大きい」と嘆く。割高な料金は観光にも影響しかねず、白糠延伸の効果が釧路圏に十分広がるかは不透明だ。

（釧路報道部 峰村秀樹）